

ずいそう

江戸を斬る

進 邦 康 成



えー、毎度のおはこびで

世の中には時代小説とか歴史小説とかがありますな、かくゆうわたくしも結構好きなほうで、剣客の秋山小兵衛が舞い、坂本竜馬が走り、徳川家康が勝ち鬨を上げたりしてますね。

でも、読めば読むほどわからないことも多くあります。

ごいんきょさん、ご隠居、ご・い・ん・きょ！

何だね騒がしい。

ご隠居さんは“しのうこうしょう”ってのをご存知でしょうか、って言うのも、うちのカアが突然「お前さん、土農工商って知ってるか」って聞きやがるもんだから、「そりゃおめえ、食べたらおならがプー」「それは、屁のコショウ、ほんとに馬鹿なんだから。裏のご隠居さんに聞いておいでっ」ってな訳で。へへっ。

ほんとにお前さんはものを知らないね、土農工商と言うのは武士、お百姓さん、職人、商人と偉い順番を言い表したもので、古くは中国の春秋戦国時代（紀元前700年から200年ころ）から言われているとも、そのころは順番を現しているのではなかったとも言われている。日本では太閤秀吉さんのころに刀狩りが行われて職業農民という人々ができてかららしいね。

工商となっているけれど、明確な区別があったわけではなくて、武士や農民以外の人々を指しているとも言われているな。

へー、さすがはご隠居、物知りで。ところで、どれくらいの人がいたんでやしよ。

おっ、なかなか鋭いところを突いてくるね。江戸時代（1603～1868）だけでも260年以上もあって、今みたいに国勢調査をしているわけではないから、はっきりとしたことは言えないんじやが、概ね2,500万人から3,000万人くらいであまり変化がなかったとも言われておるな。食べ物の国内需給率が100%なのと、輸送手段が発達しておらんから、そこいらが限界なんだろうね。さっきの土農工商の比率なんじやが、はっきりとわからないが正解だけれど、武士5から10%、農民70から80%、工商あわせて10%くらいと言った説もある。もちろん江戸（東京）と地方では比率も違うし、下級武士や浪人などのように境界線にいる人々もあるだろうし。

ご隠居、よく本の中に三十俵二人扶持ってのが出てきやすが、ありゃいったいなんなんで。

その説明をする前に、江戸時代の税を話さなきゃいけないな。税金を払っているのは農民だけで武士はもちろん、その他の町民も税金は払っておらんかったら

しい。だいたい、それぞれの藩は幕府に決まった税金を納めておらんだな（特殊な場合にのみ払った）。地方分権が確立されておったのだな。幕府は金山、銀山、銅山などを治めておったから、取り立てて国税を必要としなかったのじやが、それでは敵対する藩が豊かになってしまうため、幕府直轄地の工事を命令したり、参勤交代で沿道にお金を落とさせたりした訳じやな。

町人は国税ではなくて地方税みたいな感じで、すんでいる地域の自治のために大家や名主が仕切っていたようだね。木戸番や町火消しに費やされておったようじや。

農民は一般的に四公六民と言われ、4割を税金として払って、6割を自分で使うことができた。税率は地方によって違うし、全体としてどれだけの出来高があったのか、誰がそれを見定めるのか、など問題点も多くあったのだね。

さて、三十俵二人扶持に戻ると、これは勤めている役職分として30俵分のお金を得ることができ、本人と家来1人分を追加でお米（1人1日あたり5合）をもらえるものだね。

扶持米として5合×2人×360日＝3,600合（9俵）これと30俵を合わせて、年間39俵分の収入ということだね。1俵がだいたい60kg弱であったことから全体で39俵×60kg＝2,340kg。現代のお米の価格がスーパーで10kg4,000円として400円/kgこれで2,340kg×400円＝936,000円となって、年収として100万円程度にしかならなかったのだね。当時は武士といえども子供の数は多いのだから、生活はかなり苦しかっただろうね。武士は商人や職人と違って収入が変化しない訳だから、内職をしたり、庭で野菜を育てたりしないといけなかっただろうね。

へーそりゃ、てへんだ。今日はずいぶんと物知りになりやした。

江戸時代は不思議なことがいっぱい、当時は録音機もないから、どんな言葉で話していたのかもわからないんだよ。また、長さや重さの原器もないのに全国でだいたい統一されているし、測量しなくても長屋はそれらしく建っているなど、当時の西洋と比べても引けを取らない技術があるかと思えば、手先の器用な日本人とも思えないくらい原始的であったりと知れば知るほど面白いね。

最後に江戸とかけまして、SMAPとときます。その心は、TOKIO（東京）の前

おあとがよろしいようで。